

協同

[新春対談] 兵庫県の農業と地域のためにJAが果たすべき役割について

2022
Jan
KYODO

1



タッグ!兵庫の農業人

品質向上のための
栽培試験に取り組む

Farmer × JA staff
櫻木千也さん
田村太一さん

詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中!

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は JAあわじ島

品質向上のための 栽培試験に取り組む

収穫を迎えたレタスの出来栄について話す櫻木さん(左)と田村さん



生産者

レタス生産者
櫻木 千也さん

毎年、天候や気温など自然との戦いで、いろんな苦労があるからこそ、野菜作りは楽しいです。これからもたくさんの人に美味しいレタスを食べてもらうために頑張ります!



JA職員

JAあわじ島 志知支所
営農主任
田村 太一さん

これからも気象条件の影響を受けにくい農業を目指して、生産者と連携しながら様々な栽培試験を続けます。生産に関する提案から地域を盛り上げていけるよう頑張ります!



JAあわじ島では、冬場も日照時間が長く、温暖な気候と多くの有機物を含み排水性の良い砂壌土をいかしたレタス栽培が盛んだ。また、水田で、水稲とたまねぎ、はくさい、レタス等の野菜を組み合わせた三毛作による高度な土地利用と農業生産が行われている。

南あわじ市の櫻木千也さんは10年前、親から圃場を受け継ぎ、現在、レタス150aをはじめ、たまねぎ100a、水稲70aを栽培している。最も力を入れているレタス栽培では、ダイヤモンドやオーウェン、ビブレ等6品種を栽培している。レタスとたまねぎの栽培面積は、この4年間で60～70a拡大。その背景で、JAあわじ島志知支所で営農主任の田村太一さんが良き相談役となっている。

田村さんはレタス、水稲、たまねぎを中心に栽培管理、相談、提案を行っている。生産者の圃場へ積極的に出向き、苗の定植から収穫まで、様々な支援を行う。櫻木さんは「連絡するとすぐに来てくれ、気兼ねなく相談することができる。的確なアドバイスをしてくれるおかげで、安心して野菜栽培ができ感謝している」と話す。

また、JAでは、櫻木さんを含むレタス農家と連携し、南あわじ市の環境に適したより高品質なレタスの生産に向けて、毎年数多くの栽培試験を実施している。令和3年度は116の圃場で試験を実施し、過去3年で79品種を試験した。さらに、GAP認証に向けた支援やスマートフォンでレタスを撮影すると生育状況を分析し、定植日と今後の予想気温をもとにレタス収穫時期を予測するアプリの実用化に向けて取り組んでいる。

JAでは、生産者との信頼関係を基本に、今後も栽培試験等による農作物の品質向上によって農業所得向上と生産拡大を目指す。

JAあわじ島のレタスの品質向上へ向けた取り組み

レタスの品質向上・生産拡大に向けて、
生産者と連携し、栽培試験に取り組む

栽培試験を行う
試験圃場数
(令和3年度) **116圃場**

栽培試験を行った
レタスの品種
(令和元年～) **79品種**